



2025年3月14日

各 位

会 社 名 H a m e e 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 水 島 育 大
(コード番号：3134 東証スタンダード)
問 合 せ 先 経 営 企 画 部 マ ネ ー ジ ャ ー 國 井 俊 樹
(TEL. 0465-25-0260)

(追加)「2025年4月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部追加について

当社は、本日開示いたしました「2025年4月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」において、一部内容を追加いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

追加の理由

決算短信においてサマリー情報のみとなっていたため、全文を追加いたします。なお、数値に変更はございません。



2025年4月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年3月14日

上場会社名 Hamee株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3134 URL https://hamee.co.jp/
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 水島 育大
 問合せ先責任者(役職名) 経営企画部マネージャー (氏名) 國井 俊樹 (TEL) 0465-25-0260
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家等向けに
 3月17日に開催予定)

(百万円未満切捨て)

1. 2025年4月期第3四半期の連結業績(2024年5月1日~2025年1月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年4月期第3四半期	17,336	35.6	1,938	42.3	2,028	40.8	1,066	53.7
2024年4月期第3四半期	12,782	21.3	1,362	16.4	1,441	18.9	693	△14.9

(注) 包括利益 2025年4月期第3四半期 828百万円(△18.0%) 2024年4月期第3四半期 1,009百万円(4.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年4月期第3四半期	66.87	66.86
2024年4月期第3四半期	43.56	43.54

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年4月期第3四半期	18,196	10,644	58.0
2024年4月期	14,512	10,157	69.3

(参考) 自己資本 2025年4月期第3四半期 10,559百万円 2024年4月期 10,063百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年4月期	—	0.00	—	22.50	22.50
2025年4月期	—	0.00	—		
2025年4月期(予想)				22.50	22.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年4月期の連結業績予想(2024年5月1日~2025年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	19,745	12.1	2,084	8.7	2,051	1.6	1,362	21.5	83.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 当社は年次で業績管理を行っているため、業績予想につきましては通期のみの記載となります。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
 新規 -社 (社名) 、除外 -社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年4月期3Q	16,294,400株	2024年4月期	16,286,400株
② 期末自己株式数	2025年4月期3Q	344,675株	2024年4月期	355,575株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2025年4月期3Q	15,943,076株	2024年4月期3Q	15,919,946株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	10
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、12月の日銀短観によると大企業全産業のD I（業況判断指数）が製造業では前回の9月調査から改善した一方で、非製造業では人手不足の深刻化や米価を中心としたコストの増加、秋口以降の温暖な天候を受けた季節商材の需要の弱さ等によって悪化しました。業況はインバウンド消費やデジタル化投資等を中心に引き続き改善するものと思われませんが、資源価格の高騰や物価の上昇、アメリカの今後の政策動向、金融資本市場の変動等により、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような経営環境の下で、当第3四半期連結累計期間における当社グループのセグメントごとの経営成績は次のとおりとなりました。

なお、第1四半期連結会計期間より、各報告セグメントの業績をより適切に反映させるため、グローバル事業の一部費用の配賦方法を変更しております。当第3四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の算定方法に基づいております。

① コマースセグメント

a. モバイルライフ事業

当第3四半期連結累計期間においては、新型iPhone及び売れ筋機種向けに主力製品であるiFaceシリーズのReflectionやFirst Classなどの新モデルを積極的に展開し、前年同期を上回る販売実績を達成しました。また、iPhone関連商品に加え、トレンドを取り入れたモバイルアクセサリや人気キャラクターとのコラボレーション企画など、多角的な商品戦略でiFaceブランドのさらなる市場拡大を図りました。

具体的には11月に発売したウェーブデザインやきらめきを基調としたBeBlingシリーズ、12月に発売したポケットモンスターとコラボレーションしたスマホリングとスマホケースやGalaxy Z Flip6専用のオールクリアスマホケース「iFace Look in Clear Hybridケース」の販売、1月にはディズニー&ピクサーデザインのうねうねケースや韓国の可愛いが詰まったハンドストラップ等を発売いたしました。これらの施策等により、卸販売、小売販売共に前年実績を超え、売上高は前年同期比13.0%増となりました。

b. コスメティクス事業

コスメティクスブランド「ByUR（バイユア）」は当第3四半期連結累計期間にて売上計画を超過しており、当第3四半期会計期間においても売上高は概ね計画通りとなりました。

11月には毛穴ケア化粧水であるトナーを発売、11月と12月には都内にてポップアップショップを開催する等、引き続き大きな話題を生んでおり、多くのお客様からご支持を頂いております。その結果としてブランドシリーズ累計でベストコスメ193冠を受賞いたしました。引き続き多彩な品質の良い新商品をリリースすると同時に、ウェブ広告の配信先をInstagramからTiktokへシフトさせ、これまでのターゲットとは違う顧客層へのアプローチを開始いたしました。その結果、売上高は前年同期比83.8%増となりました。

c. ゲーミングアクセサリ事業

ゲーミングモニターブランド「Pixio（ピクシオ）」は引き続き販売が好調なカラーモデル（ホワイト、パステルカラー、ベージュ、ミント、パープル）のゲーミングモニター及びモニターアーム等の周辺機器が牽引役となり、AmazonブラックフライデーなどECモールのセールや年末商戦において販売が拡大いたしました。

各種ECモールにて販売が好調であることから、新規EC店舗取引先との契約、家電量販店及び電子機器販売店などとの取引も拡大した結果、売上高は前年同期比287.0%増となりました。

d. グローバル事業

米国市場、韓国市場及び中国市場において、連結消去後の売上高は前年同期比31.6%増となり、グループ外に対する売上高も販売が好調に推移した結果、前年同期比19.9%の増収となりました。これは主に米国市場における卸販売店舗数が拡大し、販売数量が増加したことが大きな要因となっております。

これらの結果、コマースセグメントの当第3四半期連結累計期間の売上高は14,329,912千円(前年同四半期比44.4%増)、セグメント利益(営業利益)は1,536,116千円(同67.4%増)となりました。

② プラットフォームセグメント

a. ネクストエンジン事業

2023年6月にサービス価格を改定し、基本利用料を月額10,000円から3,000円に引き下げたことで、EC販売における流通額が小規模な事業者様への間口が広がると同時に、従量課金の基礎となる受注処理件数の増加が利用料金に反映されやすくなったことに起因して、2023年11月の新サービス価格の既存ユーザーへの適用開始以降、ARPU(注)が向上する傾向が続きました。第2四半期までに料金改定の効果は一巡したものの、当第3四半期連結会計期間のARPUは39,650円となりました。なお、前第3四半期から発生したメルカリとの営業連携に伴うインセンティブ売上の影響で、前第3四半期連結会計期間のARPUは46,534円と突出しておりますが、当該特殊要因は11,000円程度のARPU押し上げ効果があったと分析しており、それを除くと着実にARPUは伸長しております。

一方、EC事業者が年末商戦で繁忙期となるため、トレンド的に新規契約が伸びづらいタイミングということもありますが、総契約社数は6,489社(前事業年度末比233社増)と増加基調を維持しております。

以上の結果、ネクストエンジン事業の売上高は2,228,158千円(前年同期比7.1%増)となりました。

(注) ARPU(Average Revenue Per User)とは、1ユーザーあたりの平均売り上げを示す指標を意味します。

b. ロカルコ事業

2023年10月に施行された、ふるさと納税に係る一部制度変更に起因する特需が2023年9月に発生しており、その反動によって第2四半期は対前年同期比で伸び悩んだものの、最盛期である第3四半期連結会計期間は前年同期を上回って推移いたしました。

また、昨年4月に事業譲受により取得いたしました、伝統工芸品のEC販売事業については、在庫の安定供給という仕入先(工芸職人)の課題があるものの、ふるさと納税支援サービスの契約自治体内で仕入先を開拓するなどの地道な活動により販売機会の拡大に努めました。

以上の結果、ロカルコ事業の売上高は509,986千円(前年同期比8.1%増)となりました。

c. コンサルティング事業

引き続きコンサルタントのリソース確保(採用と定着率の向上)という経営課題があることから、現有リソースの稼働率最大化と採算管理の徹底を意識した活動を継続しております。そのため、売上自体は前年同期に比して減収が続いておりますが、案件ごとの採算管理、コンサルタントの稼働率向上、コスト見直しなど、収益性を重視した取り組みに注力した結果、営業利益の実績は前年を大きく上回ることが出来ました。

以上の結果、コンサルティング事業の売上高は280,734千円(前年同期比11.3%減)となりました。

d. エンサーモール事業

新規事業開発の成果として前連結会計年度にβリリースをした、メーカーと小売店を繋ぐ新たな卸売マーケットプレイス「encer mall(エンサーモール)」の運営に係る事業で、会員企業の勧誘などマーケティング活動と研究開発活動が主な内容となっておりますが、卸売事業者、仕入事業者ともに会員登録企業数は増加しつつあり、モール内流通も徐々に開始されております。

以上の結果、エンサーモール事業の売上高は62千円となりました。

これらの結果、プラットフォームセグメントの当第3四半期連結累計期間の売上高は3,018,941千円(前年同四半期比5.2%増)、セグメント利益(営業利益)は1,643,214千円(同11.2%増)となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は17,336,703千円(前年同四半期比35.6%増)、営業利益は1,938,398千円(同42.3%増)、経常利益は2,028,957千円(同40.8%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,066,049千円(同53.7%増)となりました。

なお、当社が保有する関係会社株式のうち、非連結子会社1社の株式について、事業環境や今後の見通し等を勘案し、特別損失として「関係会社株式評価損」283,321千円を計上しておりますが、業績予想につきましては、2024年6月14日に公表いたしました通期連結業績予想に変更はありません。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末と比べ3,684,389千円増加し、18,196,861千円となりました。これは主に、商品が1,690,550千円増加したこと、その他の流動資産が1,427,316千円増加したこと、受取手形及び売掛金が279,160千円増加した一方で、のれんが127,011千円減少したことなどの結果によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末と比べ3,197,340千円増加し、7,552,673千円となりました。これは主に、短期借入金が1,900,000千円増加したこと、未払金が1,081,334千円増加した一方で、長期借入金が157,590千円減少したことなどの結果によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末と比べ487,048千円増加し、10,644,188千円となりました。これは主に、利益剰余金が707,605千円増加した一方で、為替換算調整勘定が171,105千円減少したことなどによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社が保有する関係会社株式のうち、非連結子会社1社の株式について、事業環境や今後の見通し等を勘案し、特別損失として「関係会社株式評価損」283,321千円を計上しておりますが、業績予想につきましては、2024年6月14日に公表いたしました通期連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,021,675	4,204,266
受取手形及び売掛金	2,367,883	2,647,043
商品	2,791,349	4,481,899
仕掛品	4,544	7,988
原材料及び貯蔵品	80,037	197,712
その他	1,410,988	2,838,305
貸倒引当金	△44,017	△48,575
流動資産合計	10,632,462	14,328,640
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	830,184	995,307
減価償却累計額	△202,805	△246,746
建物及び構築物(純額)	627,378	748,560
車両運搬具	3,932	3,761
減価償却累計額	△1,729	△2,218
車両運搬具(純額)	2,203	1,543
工具、器具及び備品	1,074,720	1,365,411
減価償却累計額	△770,248	△935,774
工具、器具及び備品(純額)	304,471	429,637
使用権資産	408,754	432,653
減価償却累計額	△268,590	△182,190
使用権資産(純額)	140,164	250,462
土地	367,820	354,893
建設仮勘定	7,860	4,205
有形固定資産合計	1,449,898	1,789,302
無形固定資産		
のれん	496,487	369,475
ソフトウェア	285,097	258,804
商標権	20,372	22,138
その他	29,171	53,799
無形固定資産合計	831,129	704,217
投資その他の資産		
投資有価証券	643,592	13,128
関係会社株式	349,106	588,294
長期貸付金	16,418	18,253
退職給付に係る資産	170,367	104,220
繰延税金資産	324,775	478,965
その他	123,231	200,113
貸倒引当金	△28,510	△28,274
投資その他の資産合計	1,598,982	1,374,700
固定資産合計	3,880,010	3,868,221
資産合計	14,512,472	18,196,861

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年1月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	369,736	403,233
短期借入金	1,200,000	3,100,000
1年内返済予定の長期借入金	210,120	210,120
未払金	935,374	2,016,709
未払費用	226,482	250,257
未払法人税等	362,724	448,666
賞与引当金	18,093	46,214
その他	190,093	272,732
流動負債合計	3,512,623	6,747,932
固定負債		
長期借入金	774,860	617,270
資産除去債務	12,375	52,795
その他	55,474	134,676
固定負債合計	842,709	804,741
負債合計	4,355,333	7,552,673
純資産の部		
株主資本		
資本金	598,524	605,640
資本剰余金	545,014	553,424
利益剰余金	8,599,706	9,307,312
自己株式	△341,799	△331,321
株主資本合計	9,401,446	10,135,056
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	66,665	16
為替換算調整勘定	595,305	424,200
その他の包括利益累計額合計	661,971	424,216
新株予約権	93,721	84,915
純資産合計	10,157,139	10,644,188
負債純資産合計	14,512,472	18,196,861

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年5月1日 至 2024年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年5月1日 至 2025年1月31日)
売上高	12,782,724	17,336,703
売上原価	4,768,303	7,136,921
売上総利益	8,014,421	10,199,781
販売費及び一般管理費	6,652,365	8,261,382
営業利益	1,362,055	1,938,398
営業外収益		
受取利息	737	1,522
持分法による投資利益	3,357	—
為替差益	24,602	51,400
その他	81,339	92,793
営業外収益合計	110,037	145,716
営業外費用		
支払利息	20,703	28,472
支払保証料	5,801	5,926
持分法による投資損失	—	8,955
その他	4,237	11,802
営業外費用合計	30,742	55,157
経常利益	1,441,350	2,028,957
特別利益		
固定資産売却益	104	15
新株予約権戻入益	1,887	3,774
特別利益合計	1,991	3,789
特別損失		
固定資産除却損	2,118	14,897
投資有価証券売却損	—	1,532
投資有価証券評価損	5,070	19,998
関係会社株式評価損	—	283,321
子会社株式清算損	3,238	—
特別損失合計	10,427	319,750
税金等調整前四半期純利益	1,432,914	1,712,996
法人税、住民税及び事業税	571,754	751,878
法人税等調整額	167,692	△104,930
法人税等合計	739,446	646,947
四半期純利益	693,467	1,066,049
親会社株主に帰属する四半期純利益	693,467	1,066,049

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年5月1日 至 2024年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年5月1日 至 2025年1月31日)
四半期純利益	693,467	1,066,049
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	37,653	△66,649
為替換算調整勘定	278,499	△171,105
その他の包括利益合計	316,152	△237,754
四半期包括利益	1,009,620	828,294
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,009,620	828,294
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前年四半期及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。これによる前年四半期の四半期連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年5月1日 至 2024年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	コマース	プラット フォーム	計		
売上高					
顧客との契約から生じる 収益	9,921,854	2,860,869	12,782,724	—	12,782,724
外部顧客への売上高	9,921,854	2,860,869	12,782,724	—	12,782,724
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	8,309	8,309	△8,309	—
計	9,921,854	2,869,179	12,791,034	△8,309	12,782,724
セグメント利益	917,478	1,478,364	2,395,842	△1,033,787	1,362,055

(注) 1 セグメント利益の調整額△1,033,787千円は主に各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に一般管理費であります。

(注) 2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2024年5月1日 至 2025年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	コマース	プラット フォーム	計		
売上高					
顧客との契約から生じる 収益	14,329,912	3,006,790	17,336,703	—	17,336,703
外部顧客への売上高	14,329,912	3,006,790	17,336,703	—	17,336,703
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	12,151	12,151	△12,151	—
計	14,329,912	3,018,941	17,348,854	△12,151	17,336,703
セグメント利益	1,536,116	1,643,214	3,179,331	△1,240,932	1,938,398

(注) 1 セグメント利益の調整額△1,240,932千円は主に各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に一般管理費であります。

(注) 2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、各報告セグメントの業績をより適切に反映させるため、グローバル事業の一部費用の配賦方法を変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の算定方法により作成したものを記載しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年5月1日 至 2024年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年5月1日 至 2025年1月31日)
減価償却費	505,463千円	522,107千円
のれんの償却額	82,252	86,603